半導体漫遊記 266

湯之上隆

幻となった衆議院半導体2回目講演

国会議員に政策立案の資格なし

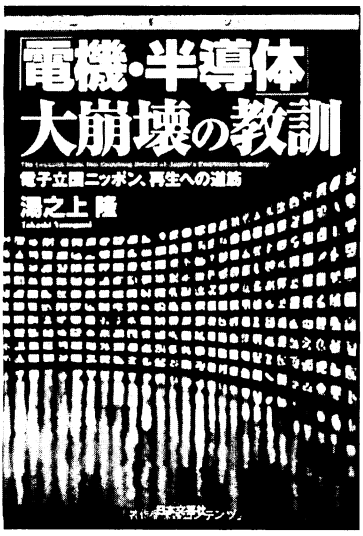
衆議院の委員会が6月1日（火）に開催され、半導体政策に関する討論が行われた。筆者は、理化学研究所理事、一橋大学名誉教授等と共に参考人招致され、15分の意見陳述を行った。意見陳述の様子はYouTubeに公開されており（https://www.youtube.com/watch?v=iCbyGzxFPWE）、それを視聴した多くの人から絶賛していただいた。15枚のパワーポイントをつくるのに2週間以上、悪戦苦闘したが、衆議院議員たちからも拍手喝采され、大役を果たすことができたと胸をなで下ろした。

この意見陳述から1週間たった6月7日（月）、上記委員会に参加していた立憲民主党の山岡達丸・衆議院議員からメールが届き、「前回3人を参考人招致したが、今度は湯之上だけを招聘（しょうへい）し、半導体の勉強会を開きたい」と要請された。つまり、衆議院の2回戦目が計画されたわけである。

山岡議員はメールで「国会が閉会になる6月16日までに勉強会を行いたい（可能な日は11（金）、14（月）、15（火）のいずれか）」「湯之上に45分講演してもらって45分の質疑を行いたい」「場所は国会の近くの議員会館で足を運んでほしい」などと言ってきた。

筆者はまた頭を抱えることになった。話すテーマは未定だが、あまりにも準備時間が短すぎる。11（金）は不可能なので、12（土）と13（日）に準備して、14（月）か15（火）に行うしかない。その旨を伝えた結果、6月15日（火）午後5時から勉強会を行うことが正式に決まった。

次に、東京都はコロナの緊急事態宣言下にあり、小池都知事が県境を越えた移動をしないよう連日警告しているため、リモートで行うのが望ましいと伝えたが「技術的に無理」と回答された。これには大いに驚いた。だってそうでしょう。政府や自治体などが民間企業に対して「極力在宅勤務、極力リモート」を要請しているのである。国会議員は自らその範を示すべきである



湯之上隆著『電機・半導体」大崩壊の教訓』（日本文芸社）1650円（税込み）

にもかかわらず、「技術的に無理」とはどういうことだ？　自分ができないことを、なぜ国民に強要するのか？

また何を話したらいいかと何度聞いても一向にらちが明かない。しかし45分ではトランジスタ、半導体集積回路、ムーアの法則、微細化など半導体の基本を説明する時間すら取れないだろう。

悩みに悩んだ筆者は、あるアイデアを思いついた。筆者はこれまで3冊の本を出版しているが、2冊目の本『「電機・半導体」大崩壊の教訓』（日本文芸社、1500円）の在庫が20～30冊ほどある。この本を議員に1人1冊、ポケットマネーで購入してもらって、勉強会ではその糸口となる講演を行い、国会閉会後に各議員には拙著を読んで勉強していただけばいいと思ったのだ。

そのように山岡議員に電話連絡したところ、「無理」と言ってきた。筆者は「勉強会の時間が不十分だから、各議員にポケットマネーで購入いただいて勉強してほしい」ということを何度も繰り返した。

すると6月10日、勉強会を企画した議員らが話し合いを行い、「新たな予算措置を講じるには時間がかかるため、そういう条件を出すのなら勉強会は中止する」と一方的に告げられた。これには驚きを通り越してぼうぜん自失した。たった1500円のポケットマネーで本を買うことすら、衆議院議員は拒んだのである。そんな国会議員には、半導体の政策立案を行う資格はないと断言する。

（微細加工研究所・所長）